

# 障害児の父親像の検討

山 本 勇 志（福井県小児療育センター）  
春 木 伸 一（福井県立病院小児科）  
大 塚 富 夫（福井県立特殊教育センター）  
平 林 敏 男（福井県青少年センター）  
渡 辺 嵯 恵子（仁愛女子短期大学）  
嶋 田 政 治（福井中央児童相談所）  
武 田 吉 則（敦賀児童相談所）

## 目 的

障害児が社会復帰を目指して日夜努力する様子をみていると、直接それを支えているのはまず母親であると感じられる。しかし、深く接触すればする程、実は父親が大きく影響を与えていることが判ってくる。父親が障害をどのように受け止め、その子の未来をどのように思い画くかということが、療育の効果を左右するものであることが理解されてくる。

又、情緒障害を示す子供特に登校拒否児において、父親の性格や家庭での役割が特異な像を示すことが注目されている。

障害を示す子供の症状や予後に、父親がどのように反応し、どのように影響を与えているかを検討したい。その為には、父親の人間像 — 性格や子供に対する態度、できれば人生観といえるものまで把握し、客観的に評価し更に正常な子の父親と比較検討することの可能性と方法について模索したい。

## 方法と計画

- I 58年度
  1. 上記協力機関で取り扱う障害児（A群）と情緒障害児（B群）の症例をリストアップし整理する。
  2. 父親像を客観的に評価し比較するための方法の検討
    - a. 文献収集
    - b. 討論
    - c. 試案作製と pilot study
- II 59年度
  1. Iの1 A B群の症例の父親について Deta の作成
  2. 上記症例の母親について、育児態度の調査
  3. field work を行って、福井の父親の標準像を検討
- III 60年度  
対象児の父親の特色について考察を加え指導について有用な資料を作成する。